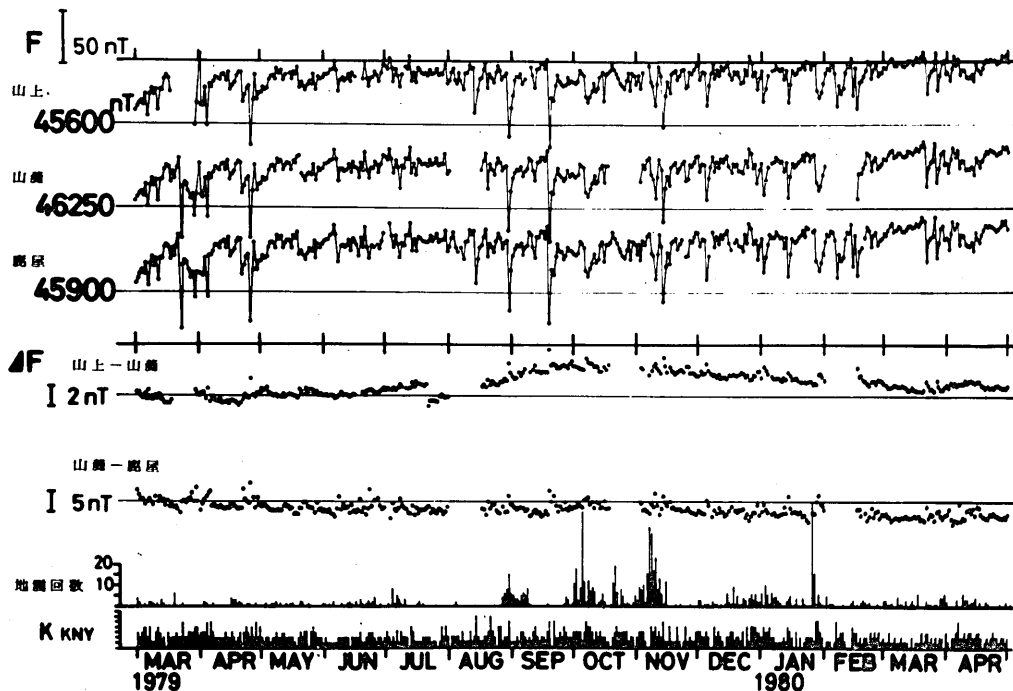


阿蘇山における地磁気観測 (II) *

気象庁地磁気観測所

既に報告したように¹⁾, 地磁気観測所 (鹿屋) は, 1979年3月より, 阿蘇山上 (測定略号ASJ), 阿蘇山麓 (AHK) の2点にカセットテープ記録式プロトン磁力計を置き, 全磁力連続測定を行っている。ここでは観測開始から1980年4月までのその測定結果を報告する。この期間の火山活動を概観すると, 1979年6月13日15時10分に起った小噴火後中岳第一火口は活発な活動を続け, 多量の火山灰や噴石の噴出が続いた。8月下旬から9月初めの大雨で一時閉塞していた火口は, 9月6日13時06分大きな水蒸気爆発を起した。その後も小さな爆発 (1979年11月2日, 1980年1月26日) があつた²⁾ が, 次第に静穏化の傾向にある。

第1図は, この期間の阿蘇山上, 阿蘇山麓および鹿屋における夜間2時間 (00時00分~01時59分) の全磁力を, 全磁力相互差とともに示す。1979年7月21日10時~11時の約1時間に山上測点で約3 nT の全磁力のギャップ (減少) が起つたが, その原因は明らかにできなかった。このギャップを除くと山上と山麓の全磁力差は滑らかな変化を示し, 火山活動に伴うと見られる明瞭な変化は観測されていない。上記の滑らかな変化について, 桜島有村で見られる年周変化に類するものかどうかなお暫く推移に注目する必要がある。



第1図 阿蘇山における全磁力連続測定結果 (1979年3月-1980年4月)
鹿屋, 阿蘇山上および阿蘇山麓における夜間の全磁力および全磁力相互差の日日変化を示す。

* Received July 31, 1980

参 考 文 献

- 1) 気象庁地磁気観測所(1979):阿蘇山における地磁気観測(I),火山噴火予知連絡会会報,
16, 29-32
- 2) 久保寺章(1980):第18回火山噴火予知連絡会報告